献灯香茶の使い方

お盆迎えの日がやって来ました。本年は、戦後七十年と言う、大きな節目となる年のお盆で、ことのほか感慨深い思いが致します。

毎年のことですが、常楽寺では「献灯香茶」と書かれた小箱を、お盆迎えの時に、お渡ししていますが、お線香とろうそく、そして、小さなマッチと銀の袋に入ったお茶のセットです。

お盆迎えも、多くのご家庭で車をご利用されますので、寺で提灯に灯を頂いても、車の中まで火をつけた提灯は、持ち込めません。いったん火を消して帰えられますが、「献灯香茶」の中のマッチは、寺でご供養を済ませたものです。このマッチを使ってご家庭のご仏壇に火を付けてください。また、銀紙のお茶は、きれいなコップにお水を入れて、その中に一つまみほど少量のお茶を浮かせていただくと、とてもきれいな、仏様へのお茶になります。お盆中、お盆棚がご仏壇の仏様にさし上げて下さい。

お盆の行事は、大変心豊かな、深い慈悲の心に満ちた行事です。お盆棚を「施餓鬼棚」とも呼びますが、「施餓鬼」とは、餓えて食べ物も食べられない「餓鬼」にも、ほどこしの手をさしのべてやろうという、思いやりのこころに満ちた行事なのです。

一年に一度、ご先祖様をお迎えする、お盆ですから、心を込めてご先祖様をお迎えする、仏様の座を準備される、それがお盆棚です。新しい芝縄をない、新しい御座を準備して、ご先祖様を迎える準備をします。

先日、弁天沼のほとりで、芝を取っていたら健康保持の為にウオーキングをされておられたお二人のご婦人が声をかけて来られました。

「何をされておられるのですか。」

「新しい、芝を取っているのです。」

「何に使われるのですか。」

「まもなく、お盆迎えです、仏様の座を作るのに使います。取り立ての芝でないあげた縄は、とても縁がきれいで、すがすがしいのです。」

私が話をすると、お一人の方が、

「わたしの実家は、水上ですが、実家ではお盆棚を飾っていましたね。」と、お盆棚を作られる様子をこまごまと話されました。

一つひとつ心をこめて、手作りされるお話しにご先祖に対する深い思いが伺えます。

「お盆の行事はね、我が家の仏様へのもてなしだけで無く、誰も手をさしのべてくれない無縁の仏にたいしても、お供物を備えてもてなしてやるのです。盆棚の下にも、お供物をお供えするのがそれです。

誰も手をさしのべてくれない仏達に、温かな手を差し延べてやることで、仏の世界で自分と縁のある仏様たちが、大切にされると考えられているのです。その意味でお盆の行事は、大変深い思いやりの心に満ちた行事なのです。」

こんな話をしながら、私は、また、きれいな芝を刈りを始めました。

ウオーキング中のお二人のご婦人は、

「心を込めて、先人たちが、取り組んで来られたことが良く解りました。」と、御礼の言葉を述べながら、また、歩き出されました。

先人の人達が、いろいろな行事の中で、それぞれの思いを込めて取り組まれて来たことが、敬遠され、より簡単なものへと切り替えられたり、省略されたりしていますが、先人の抱いた深い思いを、もう一度考えてみてはいかがでしょう。

常楽寺だより
27.8.13